

TIC NEWS

vol. **96**
2010.7

(財)とやま国際センター

〒930-0856 富山市牛島新町5-5

インテックビル4F (タワー111)

TEL (076) 444-2500

FAX (076) 444-2600

E-mail : tic@tic-toyama.or.jp

URL : <http://www.tic-toyama.or.jp>



モルンビースタジアム(サンパウロ) 約8万人を収容。

～富山県・サンパウロ州友好提携25周年～

今年で友好提携25周年を迎える富山県とブラジル・サンパウロ州。今年はブラジルへの富山県人移住100周年、ブラジル富山県人会創立50周年を迎えるなど記念すべき年です。7月には県知事を名誉団長とした2010年南米親善訪問団が南米を訪問。さらなる交流の深まりが期待されます。

イングリッシュ・チャット

日時：毎月第1・第3水曜日 19:00～20:30

場所：(財)とやま国際センター 談話室

富山県英語国際交流員のアレクサンドラ・コーツさんがコーディネーターとなり、英語での会話を楽しんでいます。参加者は毎回25名程度。ネイティブを含む2～3名の外国人ゲストも参加しています。

話題はお花見や休暇の過ごし方、富山の観光スポットなど身近なことですが、海外在住経験者から各国の事情を聞くこともできるので、日本との違いに驚いたり、改めて富山の良さに気づかされたりすることもあります。最近ではジェスチャーの話題で盛り上がりました。日本独特のお辞儀、ごますりや意味するジェスチャーは外国人参加者にとって興味深いもののようなのでした。また、各国の数の数え方の違いも新しい発見だったようです。

今後は世界の問題なども話題として取り上げ、単なる英語を話す場としてだけでなく、英語をとおした国際理解の場になればと考えています。申込、予約は不要ですので興味のある方はお気軽にお越しください。



お茶っとルーム

日時：毎月最後の火曜日 18:30～20:30

場所：環日本海交流会館 大会議室

毎月最後の火曜日に、国際交流員がコーディネーターとなり、各国の文化を楽しむ“お茶っとルーム”を開催しています。

4月27日はポルトガル語国際交流員のエヴェルソン・レモスさんが、ブラジルで人気の遊び“テーブルボタンサッカー”を紹介しました。ルール、ボタンの使い方を説明した後、参加者は卓上で実際ゲームを体験。思わず熱くなってしまったテーブルボタンサッカーの魅力を感じました。

5月25日は“アメリカンムービーナイト”と題して、英語国際交流員のアレクサンドラ・コーツさんのお薦めのアニメ映画“カールじいさんの空飛ぶ家”をポップコーン片手に鑑賞しました。当映画は第67回ゴールデングローブ賞アニメ映画賞などを受賞した話題の作品。参加者はすっかり作品の世界に浸っていました。

各国出身の国際交流員がコーディネートするお茶っとルーム。これからも皆さんのご参加をお待ちしています。



外国人のための日本語ボランティア養成講座 ーにほんご基礎知識編ー

日時：平成22年6月3日(木)～8月5日(木) 18:30～20:30 毎木曜日 全10回

場所：環日本海交流会館 大会議室

(財)とやま国際センターでは「教える人＝日本人、教えられる人＝外国人」という関係ではない、対等な立場での相互学習を行う日本語ボランティアの育成を図り、毎年、外国人のための日本語ボランティア養成講座を開催しています。今年は“あまり日本語を話せない外国人と、どうすれば「おしゃべり」ができるようになるのか?、「おしゃべり」の中から文法を身につけてもらうにはどうすれば良いのか?”ということをテーマにしています。

1回目の講座では、会話中心の日本語学習をすすめるには、いきいきとお互い気持ちよくコミュニケーションすることが大切ということを知り、実際グループに分かれて自己紹介をすることで疑似体験しました。

また、“発音と表記が一致しないひらがなは何?”という質問や、“『今晚○○の湯に行くけど、一緒に行きませんか?』ー『今晚ですか…。いいえ、行きません』という問答が不自然なのはなぜ?”など、日頃使っている日本語を改めて振り返ってみるという作業も行いました。

「仕事で外国人と接する機会があるから」、「家族の中に外国人がいるから」、「外国語を習い始めて、改めて外国人が日本語を学ぶということに興味を持った」など様々な動機でこの講座を受講された皆さんですが、“外国の方々の役に立ちたい”という思いは一つです。



新しい国際交流員よりご挨拶！

えん さいい 閻 齊偉さん（中国）

はじめまして。中国遼寧省の省都、瀋陽市から参りました閻齊偉と申します。

瀋陽について、皆様どれくらいご存じでしょうか。790万の人口と1.3万km²の面積をもつ瀋陽は、中国東北地域の経済、工業の中心地です。瀋陽及び周辺7都市が一体化した瀋陽経済圏は、国家新型工業化一体化改革モデル地区として急ピッチの発展が期待されています。

また、清王朝の発祥地として世界遺産に登録された瀋陽故宮、東陵と北陵をはじめとした数多くの歴史遺跡、四季折々の美しい自然と美味しい郷土料理が瀋陽市にはあります。

富山も、伝統の医薬品産業から近代的なロボット工業まで多彩な産業を誇り、立山黒部アルペンルートの雄大な自然、五箇山合掌造り、国宝の瑞龍寺、また富山の美味しい水や米で造ったお酒や、山の幸、海の幸は、アジアをはじめ世界各国から数多くの観光客を集めています。

この富山と瀋陽の良さを相互に理解し、交流の絆をつくるのが、まさに今からの私の使命ではないかと思えます。では、皆様、是非この一年間、そしてこれから永遠の友好交流のために、よろしくお願ひします。



はい せいい 裴 静怡さん（中国）

こんにちは。中国上海から参りました裴静怡です。父は上海出身で、母は浙江省の温州出身です。私は温州生まれで、大学時代から上海に住んで18年目になります。温州は海の幸が多く、イカ、キグチ、タチウオ、マナガツオ、ウナギ、ワタリガニなど季節によって違いますが、ほとんど毎日海の幸を食べています。夫はあまり魚を食べない内陸の西安出身です。初めて私の実家でたくさん海の幸を出された夫は妙な顔をして食べた後、「私は何でも食べます」と答えました。（どんなまずい物でも食べられる、という風にしか聞こえませんでした…）また、私に「魚とエビと蟹の肉にはどんな違いがあるの」と聞いたこともあります。結婚10年目になった今は段々違いが分かるようになったようです。

上海は人口1800万以上の大都市で、高層ビルが多く外国人も多い所です。両親は上海で住宅を買いましたが、ほとんど温州に住んでいるので、その住宅を貸し出したのですが、そこに今住んでいるのはイスラエル人です。

富山に来てから、黒部峡谷でトロッコ電車に乗って鐘釣まで行きました。チューリップフェアにも行きました。たくさんの写真を撮り、中国にいる親戚や友達に送りました。富山に魅力のある所は他にもいっぱいあると思いますので、たくさん体験して、富山の魅力と良さを中国の人にアピールしたいと思ひます。よろしくお願ひします。



いむ じんぎょん 林 眞暲さん（韓国）

富山の皆さん、アンニョンハセヨ（こんにちは）！韓国の仁川広域市出身のイム・ジンギョンと申します。

私は、中学2年生の時、日本の女の子とペンパルになってから日本の文化や日本語に興味を持ち始めました。大学では日本語・日本学を専門に勉強するようになり、今年2月卒業の後、すぐ富山県の国際交流員になりました。

2年前日本で留学をしていた時、本当に優しくて良い日本の友達に出会い、日本に対する愛情ももっと深くなりました。そして、人との出会いや交流の大切さを実感することができました。

富山に来て出会った方々も本当に優しくて、今の私は本当に幸せです。これから富山でどんな出会いが私を待っているのか、とても楽しみにしています。そして、国際交流員として仕事をしている間に出会う富山の方々に、韓国について良い思いを持ってもらえるように頑張りたく思ひます。

これから富山の美しい自然や文化をたっぷり楽しんで行きたいと思ひます。よろしくお願ひします。



移民の街

多民族国家といわれているブラジル。プラスにある移民記念館では、移民がブラジルへやってきた海のルート、またサントスやリオデジャネイロから入国した移民が車でコーヒー農園に辿り着いた様子、コーヒー農園での日常生活などが展示してあります。

また19世紀後半から20世紀半ばにかけての移民の登記などのデータが図書館でみることができます。記念館は1886年から1888年にかけて造られた実際の移民の宿舎で、入国したばかりの移民がブラジル国内の目的地へ行くまで8日間を限度として宿泊することができました。宿舎は約3,000人に対応できる規模になっており繁忙時には8,000人を収容したこともあります。

さて日本人の移民が圧倒的に多いのはアメリカとブラジルで、それぞれ約140万人の日系人が住んでいます。ブラジル国内ではサンパウロ州、パラナ州に多く住んでいます。日本人の最初のブラジル移住は1908年に始まり、農業移民たちは大変な苦勞のあと、ブラジルで“Japonês Garantido”(信頼のおける日本人)と言われるまでの地位を得ました。都市部に移住した日本人が住みついたのがリベルダージ地区。街には鳥居や日本庭園があり日本らしい雰囲気漂います。昨今では日系人の同化が進み、日本人人口の減少とともに中国人、韓国人口が増えてきたことから、“日本人街”から“東洋人街”へと改名されました。



リベルダージ地区



移民記念館

スポーツの街

ブラジルと言えばやはりサッカー。せっかくパカエンブースタジアムでサッカー観戦をし、パルメイラスなど名門サッカークラブが本拠地。ワールドカップの開催国で、モルンビースタジアム。

またサンパウロはF1の街ということも言えます。催されてから4人のサンパウロ出身のブラジリアン・フィッティパルディ(1973~1974年)、ホセ・セナ(1991、1993年)、フェリペ・マッサ(2006、2008年)の4人です。

また2010年にはサンパウロインディ300が行われ、サンパウロ市街地がサーキット場になりました。ここにもアナ・ベアトリスのようにサンパウロ出身のドライバーはブラジル出身ドライバーがたくさん出ました。

その他バレーボール、バスケットボール、テニスは日本人がもたらした柔道などの武道も盛んです。

São Paulo

サンパウロ州はキリスト教の聖人パウロにちなみ、ブラジル及び南半球で最大の都市で1,100万人を擁します。ブラジルだけでなく南米の経済、文化、政治の中心の都市です。今回はそんなサンパウロの

“祝・友好提携25周年”サンパウロからメッセージ

根塚 弘 さん(富山県人会 会長)

富山県人移住100周年、富山県とサンパウロ州との友好提携25周年、ブラジル富山県人会創立50周年という節目の年を迎えました。

今回の焦点となるのは富山県とサンパウロ州との友好提携記念式典だと思います。

富山県がサンパウロ大の学生に毎月奨学金を支給しているということは、ごく限られた人にしか知られていません。しかしながら、その恩恵に与った人達はその事を口伝えに広め、今日までこの制度が続いてきたと思っています。今回の記念式典を何とか成功させようとして協力してくれているのがこの人達です。また25年経ったときには、この人達の子供達がまた協力してくれているかもしれません。

現在2世、3世が活動の中心ですが、やがて4世、5世の時代になり、富山県とブラジルの繋がりはずっと受け継がれていくものと信じております。



友好提携20周年記念式典の模様



海外技術研修員OBによる歌の披露



県人会員も越中おわら輪踊りに参加

サンパウロの楽しみ方

大都会サンパウロ市。オスカー・フレイレ通りで高級ブランド店巡りをするのもよし、料理好きな人はメルカード・ムニシパウ（市場）でブラジルならではの新鮮な野菜、果物を買うのもいいでしょう。

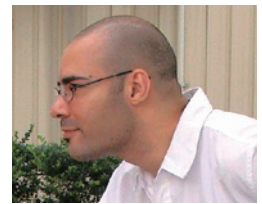
MASP(サンパウロ美術館)やパウリスタ博物館を訪れるのもいいでしょう。パウリスタ博物館にはベドロ一世の遺品などが展示してあり歴史好きにはたまりません。またサンパウロ州には美しいビーチもたくさんあります。サントスのプライヤ・グランジなどが有名です。

そして内陸であればファゼンダ（農場）を訪れてみるのもいいでしょう。ブラジルにはホテル・ファゼンダ（農場ホテル）という形態のホテルがあります。大きな敷地の中にプールなども設備されており、アウトドアや乗馬、牛の乳搾りなど田舎生活が体験できます。サンパウロ市から100km周辺に多くあります。



ホテルファゼンダ

サンパウロはブラジルと世界を繋ぐ街、そしてブラジルの最先端に行く街です。ブラジルがどれだけ発展しているかはサンパウロをみればわかります。時間があれば郊外にも是非行ってみたいですね。



国際交流員エヴェルソンさん



インテルラゴスサーキット

ようこそサンパウロへ

この名を由来し、その州都サンパウロは1000万人以上の人口がサンパウロ市に住んでいる中心地であるサンパウロは実に魅力いっぱいの見所を皆さんにご紹介します！

織田 万里 さん (サンパウロ在住 自営業)

私は平成元年に海外技術研修員として富山で研修させて頂きました。あの頃は大学を卒業したばかりで、頭は勉強盛りでした。父も母も元気で、私が海外技術研修員として日本へ行かせて頂いた事をとっても喜んでいました。

株式会社インテックで研修させて頂きました。研修の内容もさることながら、頑張ること、我慢すること、遅刻しないこと、人を尊敬することなど、いろんなことを学びました。

毎日朝、バスに乗って研修へ通いました。夜は日本画を習いに行きました。週末は、高岡や福光にいる伯父、友達やいとこ達の家に行ったりしました。

ブラジルへ帰ってきて、仕事を探しました。クリチーバのある不動産で、インテックで研修していたのと同じような内容の仕事をしました。でも、まもなく父が病気になってしまい、私は父の手伝いをすることになりました。帰国して5年目に父は亡くなりました。

帰国して10年後、主人を連れて日本へ一度帰りました。その頃は、父も母ももういませんでした。東京からバスに乗って、懐かしい富山市に着きました。研修時代の友達に会いました。

父と母のことも分かってきました。父は機械などが好きだったので、毎日高岡工業専門学校（旧制）へ通い、卒業後、東京へ働きに出かけました。母も高岡で看護婦になる勉強をした後東京へ行って、父と知り合い結婚して、ブラジルへ工業移民者として来たということです。

いとこ達は「親の家だと思って、いつ来てもいいよ」と気持ちよく言ってくれました。日本へ帰ったら、故郷と言える所があるので、とっても幸せです。

今では、研修生活を終えてブラジルに帰国してもう20年以上経ちました。私は父の仕事を、小さくですが続けています。お盆や正月のときは、伯父さんたちへ電話したりしています。研修時代に学んできたことは、日々生かしていますし、これから一生そうだと思います。ほんとうに感謝しています。



市町村国際交流・協力、多文化共生担当課長会議

日時：平成22年5月28日(金)

場所：(財)とやま国際センター 研修室A

富山県内の市町村、国際交流協会の連携と、国際交流・協力、多文化共生事業の促進を目的に開催しました。平成22年度富山国際・日本海政策課所管事業、とやま国際センターやJICA国際協力機構の事業説明の後、こうべ子どもにここ会運営委員長の長嶋昭親氏を講師に迎えて「外国住民との共生への試み～日本語学習支援活動を通して～」というテーマで講演会を実施しました。

阪神淡路大地震の避難所の公園で日本語教室を始めた話や、日本語支援のために立ち上げた兵庫日本語ボランティアネットワークの活動紹介などをされました。実際に現場で活動が続けてこられた豊富な知識や経験を通して、各自自治体や国際交流団体が多文化共生を構築していく上で大切なことをお話していただきました。



今回はナミビア共和国から届いた青年海外協力隊 水木 武史さん からの便りをご紹介します。

独立して今年でちょうど20年、そんなまだまだ新しい国ナミビアで私は上下水道隊員として活動しています。

アフリカの大陸南部に位置するナミビア、国土は日本の約2倍の広さですが人口が約210万人しかいません。気候は乾燥帯で雨季もありますが、年間を通して雨はほとんど降らず荒涼とした景色が広がります。赴任する前年、任地である北部は雨季の降雨による洪水被害が大きかったみたいですが、今年はそれほどの雨は降らずホッとしているところです。

国名の由来はナミブ砂漠（ナミブ=なんにもないという意味）からきています。「なんにもない国なのだ」とここへ来る前は思っていたのですが、実際生活してみると電気・上下水道のインフラは都市部では整っており特に不便さは感じません。しかし、都市部以外の地域に住む低所得者層は軽量鉄板を組み合わせて作った簡素な家が多く、電気はなく、水は近くの井戸を利用するといった生活をしています。

ナミビアには身体に赤土を塗り昔ながらの生活を続けているヒンバ族、ブッシュマンで有名なサン族、人口の約50%を占めるオバンボ族等々

が暮らしています。私が活動する北部にはオバンボ族が大多数を占め、公用語は英語ですが、日常会話はオバンボ族が使う現地語オシワンボが飛び交います。初めて会う人にオシワンボで言葉を返すと表情が緩み、人懐っこく話しかけてくれます。現地の習慣で、一日の間に顔を合わす毎に挨拶をすることに初めは驚きましたが、その挨拶のたびに笑顔と力強い握手をしっかりと返してくれる、今では自分にとってとても気持ちの良い習慣のひとつであると感じています。

配属先では、現地スタッフと漏水修理や布設替え工事の現場で共に作業を行っています。その中で一番の問題点は、作業後の詳しい報告がされず、配管記録が残っていないことです。作業員に必要性を理解させながら記録を残す実践練習です。現地の要望を取り入れつつ、自分が思う理想に一步でも近づけるようにと毎日活動しています。



水木 武史さん

派遣国：ナミビア共和国

職種：上下水道

派遣期間：平成21年3月～平成23年3月

配属先：オンダンガ役場

タラセンコ・ゲンナーディエヴィチ・ユーリイさん

(沿海地方政府天然資源・環境保護局主査)



ユーリイさんと奥さん(金角湾をバックに)

Q. 今、どんなお仕事をされていますか？

A. 沿海地方における国家の環境保護対策の実務管理をしています。主に環境保護に関する法律の改善、地方レベルのエコ計画の策定・実施等を担当しています。

Q. ロシアの近況について教えてください。

A. ウラジオストクの主なニュースといえば2012年にAPEC首脳会議が開催されることです。現在50近くの建築物が建設中で、新しい空港、道路、橋、ホテル、下水・給水システム、浄化設備、ゴミ処理場、また将来極東国立総合大学が利用予定の近代的な会議ホール、展示センターなども建設中です。ロシア政府はウラジオストク市の発展に大投資します。環境に関わる分だけでも10億米ドルを投資する予定です。ウラジオストクはアジア太平洋地域への窓、国際的拠点として一層発展するでしょう。また2010年7月2日にウラジオストク市は創立150周年を迎えます。さらにきれいで快適な良い街になっていくと期待しています。

Q. 富山とはどんな結びつきがありますか？

A. 私は富山県との環境に関わる共同プロジェクトに10年以上に渡って参加しています。海辺の漂着物調査、渡り鳥調査、黄砂視程調査等、そして沿海地方での「国境のない自然」という国際環境フォーラムです。平成14年度に海外技術研修員として来県し環境分野の研修をし、私の人生の大事なステップとなりました。研修が終わって大分時間が経つにも関わらずその時得た知識と経験は今でも役に立っています。

Q. 最後に富山の人に一言メッセージをお願いします。

A. 尊敬する富山県の皆さん！沿海地方と富山県は長年にわたる友好関係で結ばれています。私と富山との関係もまたどんどん深まり、新しい質のものになっています。環境分野の仕事で私はたくさんの素晴らしい富山県民に出会い、彼らに日本語、日本文化等を教えてもらいました。これからも友好関係促進のためにできる限りのことをしたいと思います。それは私達の子どもの将来にも大きな影響を与えるでしょう。

平成22年度上半期 草の根国際活動助成団体決定！

当財団では民間の非営利団体等が主催する国際交流・協力活動および多文化共生活動などの事業に対し助成しています。平成22年度上半期の助成団体は以下の団体に決定しました。

| 団 体 名 | 事 業 名 |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 富山県日韓親善協会 (会長 高田 眞) | 富山県日韓親善協会創立35周年記念 日本韓国伝統芸能富山公演 |
| 南砺ラオス会 (会長 片岸 博) | ラオス音楽協力活動事業 |
| 富山日伯交流友の会 (会長 木口 実) | 在住日系ブラジル人支援事業 |
| 高岡外国人の子どものことばと学力を考える会(会長 青木 由香) | 高校進学を目指す外国人生徒のための学習支援教室 |
| (社)富山青年会議所 (理事長 藤井 義成) | 日本香港青少年国際交流事業 |
| 高岡市日中友好協会 (会長 荒井 公夫) | 「歓聚一堂」「談談悦悦」開催事業 |
| 富山ルーマニア友好協会 (理事長 竹内 祥子) | マケドニアの現状と文化の紹介 |
| ふれあいサロン「ベルの会」(会長 町田 スズエ) | 大沢野国際料理・文化交流事業 |
| いみず・多文化共生ことはじめの会 (代表 亀井 あつ子) | 「いみず・多文化共生ことはじめ」開催事業 |

平成22年度下半期助成事業の募集は9月ごろ実施の予定です。

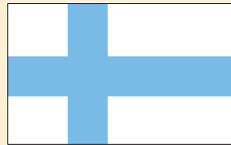
ノペア マルヤピラッカ(ベリーパイ)

ベリーパイはフィンランドでよく作られます。ラズベリー、ブルーベリー、ストロベリー、コケモモなどのベリー類をいろいろな料理で楽しめます。パイでお客さんをもてなしたり、または家族との午後のひと時をコーヒーと共に楽しめます。ベリー類は大体夏から秋にかけてが収穫期で、美しくて静かな森を楽しむにはベリー摘みは最適ですし、ビタミンなど栄養も豊富に含まれています。私のお薦めはフィンランドでよく使うオーツ麦の入ったレシピです。大事なことはベリーの量をけちらないこと。ベリーはたくさん入れれば入れるほど美味しくなります。



～作り方～

1. オープンを予め200度に温める。
2. 卵と砂糖、バニラエッセンスをよく混ぜる。
3. 小麦粉、オーツ麦、ベーキングパウダーを別のボウルに混ぜる。
4. 2と3をよく混ぜサラダ油、リンゴ果汁を加える。
5. 予め油をひいた20cm型に生地を流しいれ、上にベリー類、もしくはリンゴを置いて20分焼く。



～材料～

| | |
|-------------------------------------|---------|
| ベリー類 | 500cc |
| (または250ccの細かく切ったストロベリーと皮を向いて切ったリンゴ) | |
| 卵 | 2個 |
| 砂糖 | 100cc |
| 小麦粉 | 250cc |
| オーツ麦 | 50cc |
| ベーキングパウダー | 小さじ1.5杯 |
| バニラエッセンス | 数滴 |
| サラダ油 | 50cc |
| リンゴ果汁 | 100cc |

TICからのお知らせ

これからの行事予定

外国人のための就活応援講座

7月4日(日)～11月21日(日) 全10回
13:30～15:00 環日本海交流会館(富山市内幸町6-6)

とやま国際塾

7月17日(土)～18日(日) 国立立山青少年自然の家
*高校生対象

夏休み子ども英語塾

8月23日(月)、8月24日(火)、8月26日(木)、8月27日(金)
13:30～15:00 環日本海交流会館(富山市内幸町6-6)
*小学生5～6年生対象

日本海学講座(横浜会場)

「巡回する水、つながる水」

～日本海と富山湾の調査から～

7月24日(土) 13:30～15:30
横浜港停泊の海洋研究開発機構学術研究船「白鳳丸」内

日本海学講座(親子料理教室)

「地引き網&とれたての夏魚料理体験」

8月7日(土) 9:30～14:30
黒部市生地浜、生地コミュニティセンター

富山県大学連携協議会公開講座 ー日本海学ー

「環日本海地域の中の富山」

第1回 9月11日(土)
第2回 9月18日(土)
第3回 9月25日(土)
13:30～16:20 県民会館302号室

外国人のための災害情報提供“BOUSAI RADIO”

当センターでは防災意識の啓発を目的として5カ国語(英語、ロシア語、ポルトガル語、中国語、韓国語)でのラジオ番組を制作しています。

防災情報に加えて、毎日の生活に役立つ情報や各国で人気の音楽なども紹介します！

ラジオ防災情報番組

FMとやま 周波数82.7MHz
毎週日曜日 20:00～20:10



(財)とやま国際センター賛助会員募集及び 寄付のお願い

財団法人とやま国際センターは、民間レベルの国際交流、国際協力を推進するため、様々な事業に取り組んでいます。TICの事業にご支援いただける賛助会員の方を募集しています。

年会費(1口) 個人会員 3,000円
団体会員 30,000円

また、財政基盤の充実を図るため、寄付についてもよろしくごお願い申し上げます。